

所沢市医師会学術講演会

平成26年5月29日（木） 19：15～（本講演は19：30～）

所沢パークホテル

座長 けやき内科 院長 西脇 正人 先生

講師 東京大学大学院医学系研究科 加齢医学 教授 秋下 雅弘 先生

「認知症発症と生活習慣病の関わり」

抄録

認知症は加齢の影響がとて大きな疾患であり、5歳刻みで発症率は約2倍に増加する。しかし、認知症患者数の増加は人口の高齢化だけでは説明がつかない程に著しく、その要因は生活習慣病にあるとされる。実際に、糖尿病や高血圧などの生活習慣病およびそれに関連した生活習慣が血管性認知症のみならずアルツハイマー型認知症の危険因子であることが様々な疫学研究から明らかになってきた。結果的に、後期高齢者の生活習慣病患者には軽度認知障害や軽症認知症が多く紛れている。一方、加齢とともに生活習慣病の罹患率は増加し、認知症に複数の生活習慣病を合併していることも多い。これらの点から考えるべきことは2つ。まず、生活習慣病への適切な介入で認知症は予防可能なのかどうか？もう一つは、認知機能障害などにより服薬管理能力が低下し、薬物有害作用のリスクも高い高齢者の生活習慣病管理をどのように行えばよいのか？講演では、この2つの疑問を中心に、関連する文献データに自験データを交えて、老年医学的視点から演者の考えを紹介したい。

端的に述べると、1) まだエビデンスが十分でないとはいえ、認知症予防のためにも中高年期の生活習慣病管理は厳密に行うべきであるということ。2) 翻って、後期高齢者では、個々にリスクとベネフィットのバランスを考慮しながら生活習慣病治療を行うセンスが必要であろう。





